

集い・交わり・語らい・楽しむコミュニティゾーン

伯耆しあわせの郷だより

【発行】 伯耆しあわせの郷 ☎ 26 - 5581 <http://www.shiawasenosato.jp>
 指定管理者 旭ビル管理株式会社



「芸術・文化の秋の到来です」
 先月開催しました、第17回 伯耆しあわせの郷まつりに、多数のご来場をいただきありがとうございました。ご来場の皆様に、伯耆しあわせの郷で開催している教室の魅力を伝えることが出来たら幸いです。

さて、過去最高に暑くて長い夏を乗り切り、芸術・文化に親しむ秋本番の訪れです。今年は県立美術館もオープンし、市民の皆さんが芸術・文化に親しむ機会が増えたのではないのでしょうか？

そして、今月は当館の創作・文化教室の後期講座が一堂に開講します。

継続してご受講いただいている方、今回初めて受講される方、また、まだ受講を検討されている方々の生活に、文化・芸術に親しむ機会を提供できるよう運営に努めてまいります。

まだ受講可能の講座もございますので、電話でお問い合わせいただき、ぜひしあわせの郷のメンバーに加わりましょう。お申し込みをお待ちいたします。

10月31日はハロウィンです

起源は2千年以上前とされ、この日死後の世界の扉が開き、祖先の例と一緒に、悪霊や魔女もやって来るので、身を隠すために、仮装したのが始まりとされています。

受講生募集

※申し込みは10月1日（水）から先着順にて受付、定員になりしだい締め切ります。
 ※受講料のほかに材料費などが必要です。

教室名・講師	日時	回数	定員	受講料
カフェ風ごはんでLunch！ 「アボガドとエビのチーズマヨ焼き他」 管理栄養士 小田 秀さん	10月18日（土） 10：00～13：00	1回	24人	600円
韓国料理を作ろう！ 「韓国風すいとん他」 調理師 西尾 春代さん	10月19日（日） 10：00～13：00	1回	30人	600円
米粉のハロウィーン焼きドーナツ 講師 奥村 美樹さん	10月25日（土） 13：00～15：00	1回	18人	600円

＊＊今月の休館日＊＊

10月6日（月）、10月14日（火）、10月20日（月）、10月27日（月）

🌴 フラ教室アロハステージゆりはま出場

“日本のハワイ” 湯梨浜町のはわいアロハホールで8月31日、「ハワイアンフェス」が開催されました。県内外の56団体が102曲を披露。当館のハワイアンフラ教室のみなさんも出場し、華やかな衣装に身を包み、息の合ったダンスで多くの観客を魅了。大きな拍手が送られていました。



県展受賞候補・入賞者発表

第69回鳥取県美術展覧会が開かれ、当館各教室受講者のみなさんの出品作品の中から受賞候補・入選に選ばれました。

【受賞候補】

中村 武さん(写真)「雨に歩けば」
井上 英明さん(写真)「時の過ぎゆくままに・・・」

【入選】

谷口 博教さん(絵画①)「追憶・Ⅱ」
森本 裕さん(写真)「裏通り」
山本 善仁さん(写真)「世界の国からこんにちは」
権田 誠一郎さん(写真)「流されゆく大地」

審査員によるギャラリートークの様子。
今年の中部会場は3月に開館した県立美術館。例年以上の観客を集め大盛況でした。



山上憶良短歌賞 受賞作品揮毫展開催

倉吉ゆかりの万葉歌人山上憶良にちなんで、「家族」をテーマにした第13回山上憶良短歌賞の受賞作品揮毫展を9月2日～17日まで開催しました。小学生の部から一般の部までの24首が展示され、来場者の目を楽しませていました。11月3日まで第14回の作品を募集中です。倉吉図書館 0858-47-1183 まで



小学生の部憶良賞作品
関金小学校 桑原那菜さん
お母さん
部屋のかたづけしなさいと
息するように
言わないでよね。

第37回エスポワール展開催

伯耆しあわせの郷・絵画教室①②の合同作品展「エスポワール展」が8月23日(土)～9月5日(金)の期間、当館1階展示ホールで開かれました。

20名31点の力作が飾られ、来場者のみなさんが熱心に鑑賞しておられました。



編集後記

鳥取県境港市出身の漫画家・水木しげるさんの生誕100年を記念した展覧会「水木しげるの妖怪百鬼夜行展」は、2022年7月に東京六本木で開幕。滋賀、名古屋、横浜、札幌と巡回し、鳥取県立美術館で7月19日より8月31日まで開かれました。その来場者数は3万人を超え、大盛況のうちに幕を下ろしました。

倉吉市関金町には「つちころび」という妖怪が出たと伝わっています。日本海新聞でも県内各所での目撃談が何度も掲載されました。水木しげるさんの原画では、毛むくじやらの球体あるいはだるまのような姿ですが、関金のそれは藁叩きに使う横槌のような姿をした寸胴の蛇だそうです。それが坂の上から足元に転がってきて噛みつくということ、その容姿から妖怪というより全国的なブームになった幻の蛇、珍獣ツチノコの類であると考察されます。

つちころびを模した陶製の置物が一時期出回っていたことがあり、長年の間、知る人ぞ知る幻の妖怪民芸となっていました。今般、関金町の上田福美雄さんがそのルーツを調べ、国鉄倉吉線廃線に際して記念になるものをとの思いから、関金町の陶芸家・岸信正義さんが湯の関窯・関金陶芸クラブで製作したものと分かりました。目下、関金陶芸教室において、上田さんがつちころび製作に奮闘中！40年の歳月を経て甦るつちころび、みなさんにお目にかかる日はもうすぐ、乞うご期待！